

<要旨>

(1) 「世界の空手ンチュは沖縄をどうみているか」(配付資料なし)

(株)沖縄メディア企画 経営企画部長 ミゲール・ダルーズ氏

- ① 空手家は世界に1億人いる。競技空手は1000万人いると言われているが、「沖縄=空手」の認識は薄いので、「空手は沖縄の伝統文化である」ということを世界に発信していくべきである。
- ② 沖縄を訪れる空手家は年間5000人程度。そのうち初めて訪れる空手家は5年前は20人程度。昨年200人程度に増えた。10日程度宿泊している。リピーターは各道場世話している。
- ③ 沖縄の伝統空手に関する情報を求める空手に関心のある外国人が増えてくるのではないかと。
- ④ 沖縄で空手修行した何らかの証がない。空手に関連した地元の工芸品があってもいいのではないかと。
- ⑤ 空手を実際にやっていなくても沖縄空手を語れるように空手エキスポを沖縄でやるべきではないかと。
- ⑥ 沖縄の空手関係者は、世界の空手家達が何を求めているのか、考えるべき。

(2) トレーナー向けワークショップ「KONNECT XL 2016」(配布資料あり) (株)VSSBI 代表取締役 浜村聡氏

- ① 本イベントは、スポーツトレーナーのインターン企画であり、トップトレーナーがアスリートに対し、どのようなアプローチをとっているのか、オフの時にどういうコンタクトをとっているのかを学ぶもの。
- ② 2017年1月8日から1月14日まで読谷村、嘉手納町で開催を予定している。期間中にヨガをする予定。
- ③ SiS OKINAWA の開催に合わせ1/15まで延泊してイベントを企画することもできる。

(3) SiS OKINAWA について(配布資料あり) (株)JTB コーポレートセールス 山崎 祥之氏

- ① SiS OKINAWA は人と人とのマッチング。アメリカオースチンで毎年開催されるSXSWS(サウス・バイ・サウスウエスト)をモデルにしている。沖縄でしかできないような内容にしたい。
- ② SXSWS は、音楽好きな数人の若者が自分たちの音楽を発信したことがルーツで、そこからどんどん大きくなっていった。最初から成長のシナリオがあったわけではなく、結果的に世界的なイベントに成長した。今は、世界のIT関係者や音楽関係者等約10万人が訪れる。
- ③ 本調査事業はSXSWSの本質「ビジネスに賭ける思いは真剣。スタイルは自由」を考え、また、沖縄でしかできない、ことにしたい。

(4) 参加者の主な意見・提案

- ① 琉球王国が貿易で栄えていたのは、その時代のニーズがあったから。単に最先端のものを持ってくるのではなく、沖縄でしかない、らしさが必要だと思います。
- ② 主に小学生を対象にしたスポーツ能力測定事業を行っている。向いているスポーツの種目がわ

かる。

- ③ スポーツマネジメント人材育成事業を行っている。大学スポーツがビジネスになる仕組みが必要ではないか。
- ④ 福州園のナイトコンテンツの開発をしているので、活用することもできる。
- ⑤ スポーツ×エンタメの組合せはとてもいいと思う。ある音楽イベントでビーチサッカーをする企画があり、普段サッカーをしない人も参加し、何百人という人が集まった。スポーツ×エンタメという結びつけもいいのではないか。スポーツを通して周りの産業とも関わって新しい商品やイベントを生み出していきたい。
- ⑥ 県内には社会的意義のある何らかに投資をしたい企業、個人がいる。スポーツ産業で儲かりたい人とコラボさせるような仕組みをつくるのはどうか。
- ⑦ ゲームとスポーツの組合せはネタ・題材が多く、とてもアイデアが出やすい。沖縄を絡めたスポーツゲームを作りたい。スポーツのゲームアプリだと人気作は月に 20 億の売上を出している。また、そのようなゲーム会社だと、新たなネタを欲しがっていると思われるので、そのような会社のマッチングの場になるとおもしろくないか。
- ⑧ アウトドアスポーツを家の中や庭でできるようなスマホアプリのゲーム商品を開発してはどうか（スモールスポーツ）。

以上（文責：沖縄総合事務局スポーツ産業創出チーム）